

湘南オープンウォータースイミング大会 2014

8月31日 会場（逗子湾スタート～ゴール）

-----2,5キロの部出場-----



Youtube: <http://urx2.nu/g6io>

完全にノックアウト！

ゴールまで残りは500mを切っていると思う。

右足のふくらはぎに違和感が感じられる。嫌な予感。昨年の大会では、レース後半に入り、ふくらはぎが痙攣をおこした。泳ぎを中断、身体をのけぞりラッコスタイルで足をもむ。

観客もいないのに、そんなおもしろい水泳をゴール近くで一人演じた私だった。

そんな悪夢のような情景が今年も再びあらわれた。あせる。

しかもゴールはどこだ、先はまだ長いぞ。

昨年はラッコスタイルでもがくうち、やがて回復。ゴールに向かった経験がある。しばらくペースを落とし、ゆっくり泳いでいるうちに回復してくるのだ。昨年の経験として私には分かっている。分かっているても不安はある。しばらくの我慢だ。我慢。

おや？今回は右側の内股にも痙攣が始まったぞ。ラッコスタイルで仰向けになりマーサージするも、ごちない。平泳ぎに切り替えなんとか前に進みたいが、思うように進まない。足が痛くて力が出ない。

そうこうするうち、左足の内股も突っ張ってきた！ふくらはぎも突っ張りがひどい。あちこちが突っ張ってきて下半身万事休す。

いよいよ、勝負はここまでか。ライフガードに救援を要請して棄権すべきか。ゴールまではどのくらいだろう。

岸辺のビルが大きく見えるが、ゴールの旗ははっきりしない。前方あちら、こちらに旗のようなものが見えるがどこだろう。ゴールの景色を海上で確認しておけばよかったのにと悔やむ。

まるで吹雪く雪山の遭難者のようだ。

ゴールまで400mはありそうだ。下半身ほとんど突っ張ったままだが、腕はどこも問題はないようである。

無理はできない。スピードは出ない。泳ぎのフォームはくずれている。

進みが遅く、喘いでいるというか、藁をつかんだ猿のようだ。おおっおおっ、あせっている自分が情けない。

そのむかし、山奥に金を掘りに行って道に迷った時のことだ、出会い頭に襲ってきた熊を一撃の下に仕留めた私だが（ちょっと言ってみただけです。嘘です）残念な状況だ。

どんな試合も苦しいのは同じだ。いつも自分に言い聞かせるのは「前にさえ進めばいつかはゴールはみえてくる」そんな念仏のような言葉を口にすると少し気持ちが落ち着く。ほんの少しだけ。落ち着く。

下半身がほとんど痙攣した状態でも、バタ足さえしなければ痛みは耐えられる。無理にばたつかせないでも泳ぐことは出来る。腕だけでもすすむ。

身体は左右にふられながら、遅いながらも前に進む。そこは自然の営みに感謝しよう。生きていればなんとでもなる。

いつもながらゴールが分からないので、右にひだりに蛇行を重ねているようだ。ライフガードにゴールはあちら！と声がかかる。スイカ割りさながらだ。迷える子羊のようでもある。

やがて、足の痙攣はどこへ行ったのか、苦しみながらも進む。忘れた頃にゴールがどんどん自分の方にやってくる。

浅瀬になって立ち上がれば、もうこっちのもの。海の者じゃなく、陸の者に変身。よろめく足で砂浜をかける。ゴールの計測板の向こうに 四人の救護

の人影を確認。ゴール板を踏み超えると同時に二人が私の両脇をがっちり持ち上げるように固める。残る二人が左足の計測チップバンドを外しとり、もう一人が銀メダルを首にかける。そのまま救護室へと運ばれる。

「横になりますか！？椅子にしますか！？」と問いかけてくる。

「横になったらそのまま永久に横たわって帰らぬ人となってしまうから椅子にしてくれ！」と叫びたいが、いささか朦朧としているので、「いす」と小さくつぶやく。震える身体で椅子にしゃがむ。

こうして2014年のスイミング大会の幕は閉じた。

再びスタートに話しを戻そう。

逗子湾の海岸はにぎやかだ。海の家が海岸一帯をびっしり囲んでいる。旗が立ち、威勢のいい掛け声があちこちから聞こえてくる。のどかな砂浜の風情はない。混み合った砂浜にはビキニ姿の女性達が、私はフランスにバカンスにきたの。というような風情で寝そべっている。

そんな人ごみの中を会場地点に向かう。

日本最大のオープンウォータースイミング大会はそんな砂浜の一角から4つのグループに分けられ、順次スタートが切られていた。総勢730人である。

約200名が一括りとなり、一斉に砂浜からスタートを切る。我先にと先を急ぎ。ごちゃまぜになりながら暴れ、もがきながら泳いでいく。見ているぶんにはおもしろいが、この蹴り合い、乗っかり合い、押し合い、からみ合いながら泳ぐのは神経と体力が相当疲れ、できることならゆっくり後から泳いでいきたい。どうぞお先に。でもそうはいかない男の一本道。

今回で6回目の大会参加となり、言ってみれば私は大御所。大御所ともなると、結構体力の消耗が激しい。そもそも私は早くないし、東京オリンピックへの出場権も与えられていない。

もし調子が良すぎて我慢できなくなったら、一気に追い上げ一泡吹かせてやろうという作戦はどうか？などと妄想にふけるぐらいである。

そんな気分でスタートを切った私だが、混雑は一向に解消されないまま混み合いながらいつまでも泳ぐ。

前方1、2キロあたりに黄色のブイがあるそう。そのブイを回って戻って

くるのだと説明されている。遠すぎて全く見えない。

陸上でも見えない黄色い折り返しのブイが、泳いでいる私に見える訳がない。迷子の子供を祭りのさなかに探すようなものである。

相当前から老眼だし、乱視が少々入って近眼である。ゴーグルは曇ってくるし。私はどこ？あなたは誰？

昨年の大会は江ノ島の灯台を目指してまっしぐらだから分かりやすい。目標というものは大きい方がいい。これは小さい時から言われていたことだ。人生の目標はひたすら重く、でかいのがいい。果物を見ればよくわかる。立派なもの＝おいしい。ただでもらうともっとおいしい。値段が高いようだったら見るだけでいい。たくさんあるならちょっと頂戴。

江ノ島に比べ、今回の目標のブイは何と小さいことだろう。これを目標にせよというのか。私のことを知らなさすぎる。

泳いでいる時は海面より10センチ程上から見ていることになるので、物が見えにくい。先が見えない。見えるのは私の周りを泳ぐ魚だけ。

見えない目標に向かって淡々と泳いでいるのは相当むなしい。折り返しはいつ来るのだろう。泳いでいるから、身体は大忙しだが頭の中は結構暇である。今日の夕食は何を食べようか、やり残した仕事こまったな。などと考えている。暇である。

我が家の近くの歯医者で治療を受けていたことがある。

高齢の魔女の歯科医師と、若い歯科衛生士の魔女二人の3人構成である。

痛がる患者を楽しむような冷酷さ、強引さがこの病院の売りなのか、ひたすら痛く、苦しい。口を開けた状態なので文句も言えず、手でズボンの端を握りしめ、苦しみに耐えている。冷たい汗が額からにじみ出ている。「もう止めてくれ！」と顔の表情で訴えるが、患者のことをせせら笑って楽しんでいるように治療は続く。反論できない。

歯医者ほど嫌なものはないが、やむをえない状況で誰もが治療に向かっているのだと思う。生きている実感はここにはない。

やっと痛みから解放されレントゲン室で写真をとる。「はい～おわりです」の合図があまりにあっけないので、「顔も抑えて一枚写真お願いします！」と声かけるも『無言』。立ち上がりドアの所で「一緒にとりますか？」と言ってみた。

「はい」と返事がある。ここで「はい」はないだろう。骨が2本写るだけだろ？
この魔女の歯科医院のすごいところはこんなもんじゃない。

治療が終って院長が隣の部屋へ戻り、壁越しに「痛くないですか!」と大きな声をかけてくる。治療椅子から下りながら、「痛くない訳がないだろう」「めまいがするぜ」などとぶつぶつ言いながら顎を押さえていると、衛生士の若い魔女が「大丈夫だそうです!」と叫び返す。「言っていない!」思わずつまずいて膝を打ち、打撲で近くの兼子整骨医院に向かうところだった。

この話しはスイミング中、ふと思い出したお話です。それほどスイミング中、頭の中は暇なのだ。

この魔女の歯医者者の治療に比べれば、足の痙攣なんて蚊に刺されたようなものである。

当然、頭は休んでいても、バタ足に休む暇はありません。

そしてゴールに向かって、さらに泳ぐ。

2日前に降った雨が海に流れ込み、水温は22度と低かったようである。

記録

1時間29分24秒-----制限タイムまで残り36秒!

(前回2013年の記録----1時間4分7秒)

実に25分あまり長く泳いでいたことになる。

動画のおしらせ

この大会の状況を、小型リモコンヘリで撮影。動画編集され、ネットに掲載されている。

「湘南オープンウォータースイミング2014」で検索され、ご覧願いたください。

レースの状況が5分ほどにまとめられ、音楽入りで実によく出来ている。

私は赤い帽子のグループとして泳いでいるが、トビウオのように早いので映像では確認できないだろう。

三枝樹